

がんばろうニッポン!

サッカーファミリーのチカラをひとつに！

令和8年熊本地震 被災地支援活動報告

August 20, 2026

Japan Football Association

経営企画部サステナビリティグループ

JFA



サマリー

1、被害状況の報告

- ・熊本県フットボールセンター（嘉島町）、アカデミー熊本宇城（宇城市）は人的・施設とも大きな被害はなし。

2、当面の対応

- ・発災翌日より宮本会長以下、JFA事務局内で各部門による対応ミーティングを実施。
- ・Jリーグ、WEリーグ、47FAとも対応を協議。
- ・JFAからは義援金500万円を拠出、「サッカーファミリー復興支援金口座」で募金を受け入れ。
- ・物理的支援として「ぼうさい拠点（トレーラーハウス）」2台を氷川町に配備。
→サステナビリティ・リスペクト委員会防災・復興支援部会前原部会員、国崎部会員が現地活動を開始。
- ・防災・復興支援部会永島部会長および日本代表OBOG会会長も各地を訪問（小林弥生日本代表OGも活動）。

3、復興に向けての今後の対応

- ・日本代表OBOG会、地元サッカー協会、地元クラブ等と子どもたちの居場所づくりや心身の支援のための「こころのケア活動」を計画中（能登半島地震では日本代表OBOGを派遣し、子どもたちとの交流、サッカー教室等を実施中）。

1、全体詳細

サッカーを通じて豊かなスポーツ文化を創造し、
人々の心身の健全な発達と社会の発展に貢献する。

2026年
8月12日時点

がんばろうニッポン!
サッカーファミリーのチカラをひとつに!

①被害状況

人的被害
死亡39人

建物損壊

住家被害23,404棟（調査中）

公費解体・災害廃棄物

11市町に仮置き場設置

避難生活・応急仮設住宅

避難所89か所・避難者11市町3,714人
建設型応急仮設住宅9団地159戸決定

学校、保育所等の被害

県立学校354校、市町村立293校
児童福祉施設242施設

サッカー関連施設

熊本県フットボールセンターは大きな被害はなし
「アカデミー熊本宇城」の人的・施設被害なし
被害各市町の運動公園は稼働停止が相次いでいる

災害救助法適用：21市町村（7月28日）
激甚災害：本激（地域特定なし）（8月7日）
被災者生活再建支援法：熊本県（8月10日）

②当面の対応

熊本県への
「義援金」拠出
500万円

「サッカーファミリー
復興支援金」

銀行振込による支援金募金
8月3日開始

今後開始

試合会場等での募金
クラウドファンディング
チャリティオークション ほか

JFA HEROES
子ども未来プロジェクト
ぼうさい拠点
Supported by
日本サッカー協会
THE NIPPON FOUNDATION

JFAが日本財団と整備している
ぼうさい拠点（トレーラーハウ
ス）を氷川町に2台設置

避難所運営

応急（～1週間開始）

7月末～

備蓄品配布

復旧（1週間～1ヶ月）

炊き出し

避難所解消

復興（1ヶ月～）

9月

交流

ボランティア（家屋片付け等）受け入れ・資材保管

連携済

サッカーでも利用できる移動可能な拠点
（避難所やボランティア拠点と連携）

仮設住宅
交流拠点

- サッカー界としての支援ニーズの把握を進行中。
- 夏休み中の子どもたちへの居場所づくりと、
学校が再開したのちのこころのケアの活動支援を検討中

連携中

こころのケア（安全な遊び場）

OBOG派遣での交流、
ウォーキングフットボール・キッズピッチ展開

調整中

こころのケア（学校へのアスリート訪問）

ぼうさい拠点での被災者援護活動

被災地向け夢の教室

2、当面の対応状況：発災直後

発災翌日 ぼうさい拠点の熊本県フットボールセンターから情報収集開始



- ・発災翌日からJFAスタッフが現地入りし、熊本県協会と連携して情報収集を実施
- ・防災連携協定を締結した嘉島町役場・鍋田町長と情報共有（写真中）
- ・隣接運動公園の駐車場を県外消防隊の宿营地として提供（写真右）
- ・フットボールセンターはスタジオ、コインランドリー、休憩スペースとして活用
- ・くまもと災害ボランティア団体ネットワーク、子ども支援団体のネットワーク会議にも参加し、災害支援団体との情報連携を開始

発災翌々日 ぼうさい拠点（トレーラーハウス）の移動／災害支援団体と連携し現地拠点



- ・防災・復興支援部会員とともに氷川町役場を訪問し、藤本町長と面会
- ・フットボールセンターから氷川町へ「ぼうさい拠点（トレーラーハウス）」1台を運搬し、災害支援団体の拠点を整備（写真左）
- ・「氷川町公民館」を管理するエスぺランサ熊本と連携し後方支援体制を構築。子どもの居場所づくりのニーズ把握と資材支援を実施
- ・夢Fから2台目を運搬し氷川町は2台体制に。飲料水・段ボールベッド・スポーツ用具等の備蓄品を必要先へ個別に配送
- ・永島復興支援部会長が熊本県教育長、八代市長、宇城市長、嘉島町長、氷川町長、美里町長を訪問し、お悔やみとお見舞いを伝達（写真中央）
- ・訪問先からは子どもたちのこころのケアに関する要望が多数
- ・フットボールセンターは井戸水の濁りで飲料水確保が困難なため、ぼうさい拠点備品のRO浄水器を設置（写真右）



2、当面の対応状況：発災1週間～2週間

12日後 熊本県フットボールセンターで子ども居場所づくりの団体と連携



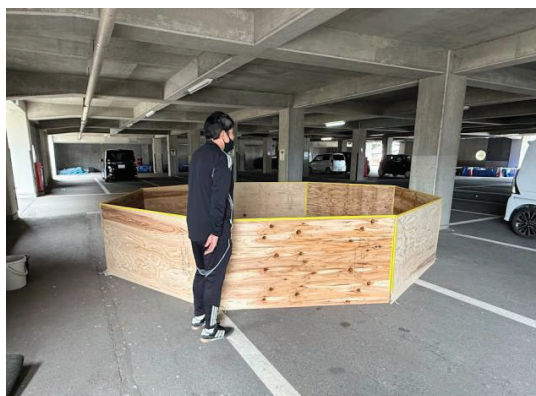
総合型スポーツクラブ「嘉島湧く湧く元気クラブ」が、国際NGO「ワールド・ビジョン・ジャパン」の協力を得て開催



永島部会長の現地訪問



「卓球をしたい」という子どものために、会議室の机を利用した即席の卓球台を作り、一緒にプレー



氷川町では、福祉避難所となっている公民館の下の駐車場スペースで準備中の遊び場の様子を視察

約3週間後 森保監督の現地訪問



8月16日に氷川町や八代市を訪問。氷川町では地元の小中学生を中心に約500人が集まった。また、専門のボランティアの指導の下で実際に活動にも参加し、ボランティアの皆さんを激励した。

「励ましのエールを届けたいと思い、ここに来た。われわれはサッカーを通して、みなさんの活力にもらえるように頑張る」

3、復興に向けての今後の対応

【直接支援活動】

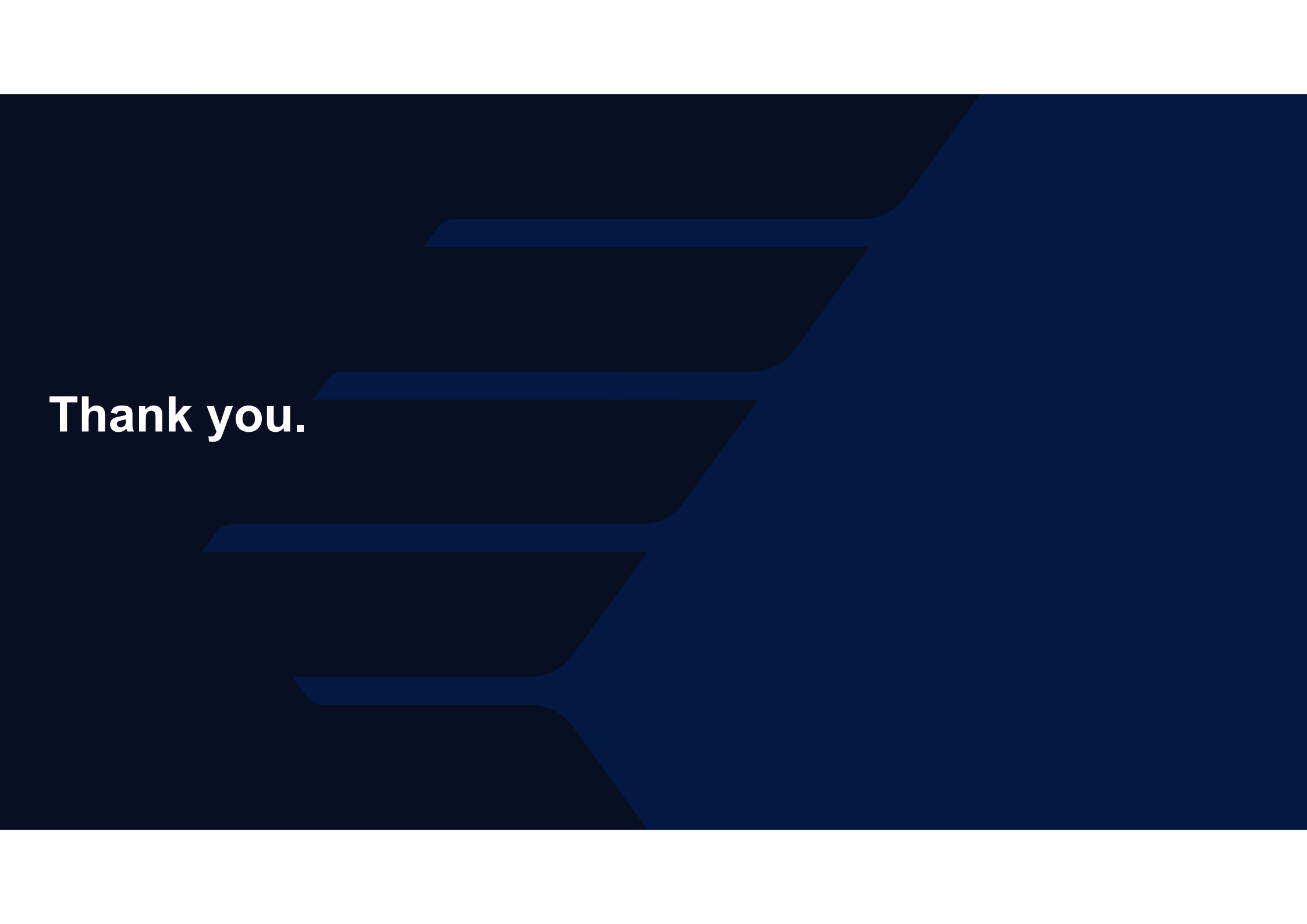
- 能登半島地震と同様の「こころのケア」の訪問体制を構築することを計画
- 熊本県サッカー協会が把握する現場ニーズをもとに、JFA防災・復興支援部会が中心となって支援内容・体制・予算の必要性の検討
 - 8月（夏休み期間中）：ニーズと体制構築を実施しつつ、当面は永島復興支援部会長、日本代表OBOG会と連携して、要望のある避難所等を訪問
 - 9月以降（学校再開後）：各自治体と連携して学校の体育や総合学習の事業でのサッカー教室等の実施。OBOG会のほか、熊本県サッカー協会やロアッソ熊本等と連携。
 - 日本財団HEROs等との連携も継続検討
- 支援費用は現時点では具体的な金額や規模は未確定（追加予算での対応を想定）。

【サッカーファミリーへの支援募集】

- 競技会等での募金活動、JFAクラウドファンディングでの支援募集
- 日本代表チームの支援協力（今後調整）
- SNS等での情報発信

現地直接支援
ニーズの把握
こころのケア活動の実施

募金活動等
国内競技会等での
募金活動
クラウドファンディングの実
施
日本代表との連携

The background features a series of overlapping, angular shapes in two shades of blue: a very dark navy blue and a slightly lighter, medium blue. These shapes are arranged in a way that creates a sense of depth and movement, with some shapes appearing to recede into the background while others come forward. The overall effect is a modern, minimalist aesthetic.

Thank you.